

災害が多かった夏が過ぎ  
東の間、凌ぎやすい季節になりました。  
夏休み明けの留学生の皆さんは  
元気に日本語の学習に取り組んでいるでしょうか。

## ◆遅れ続く 在留資格認定証明書の交付

3月の総会企画の高竿正人 補佐官（法務省）の講演でもありましたが、在留資格認定の申請が例年より増えている影響か、東京入管での審査に大変時間がかかっています。全専日協の会員からは

「交付が例年より遅れているが他の学校はどうか」

「このままでは入学式に間に合わない」

「日本語学習の時間がどんどん減っていく」

といった心配の声が全専日協の事務局にも届いております。

東京の専門学校の場合、申請日は指定されず、入学式の3か月前（4月入学生に関しては4か月前）から数回に分けて申請して郵送で送られてくる審査結果を待つという仕組みです。交付日も決まっておりません。これまでは2か月程度で交付されることが多く、各校が過去の事例を踏まえて申請しています。

なかなか審査結果が届かないため、状況を確認しようと東京入管に電話をしても「しばらくしてからおかけ直してください」というアナウンスが流れ、なかなか通じません。電話が通じても審査結果がいつごろ出るかなどは伝えてもらうことができずに「審査中なのでお待ちください」という回答となることもしばしばです。

そのため、「いつごろ交付されるのか」という入学希望者の質問に対する回答にも苦慮します。すると、「他の学校ではもう交付されているのに、どうして貴校は交付されないのか」といった入学希望者から不満があがることも多く、学校の信用にかかわる事態になりかねません。この「他の学校」とは一括申請の日本語学校のことを指していることが多いと想定されます。

協会としては東京入管に出向いて、東京入管の審査期間を短縮する予定はないか確認し、「専門学校としてどのような方策をとれば審査期間の短縮につながるのか」検討する機会を設けたいと思っています。また、交付の遅れは、入学希望者の来日の遅れに直結します。それは単に日本語学習時間の減少につながるだけでなく、日本留学に対するモチベーションを失わせ、日本に対する期待を裏切ることにつながることを訴えたいと思います。

皆様のお力も借りながら、改善に向けて努力していきたいと思っています。ご意見お待ちしております。

## ◆ 新しい「全専日協パンフレット」が完成

「教育の質を高めたい」という思いに賛同する皆さんが集まる全専日協は、今年度は64の会員でスタートいたしました。完成したパンフレットを見ると、会員の皆様の学校名、機関名が4ページにわたって並んでおり、多くの会員に支えられていることを実感します。

この新しいパンフレットは会員の皆様にすでに発送いたしました。もう届いているという学校もあるのではないのでしょうか。この機会にぜひ先生方、職員の皆様にご覧いただき、全専日協について理解を深めていただけると大変ありがたいです。

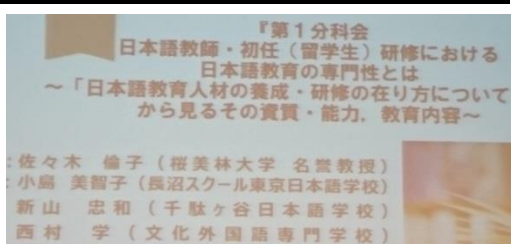
お近くの学校で全専日協に興味があるという学校や機関がありましたら、ご連絡ください。事務局からパンフレットを郵送いたします。



## ◆ 文化庁の2つのイベントに参加

文化の秋の言葉通り毎年9月は文化庁主催の催しが続きます。このうち全専日協は日本語教育に関する大会や会議で発表する機会がありました。

### [1]平成30年度 文化庁日本語教育大会 東京大会



今年は「激動！日本語教育～人材が変わる、教育が変わる、学習者が輝く～」をテーマに9月8日（土）9日（日）の2日間開かれました。2日目の「日本語教育テーマ別実践報告会」第1分科会では、「日本語教師・初任（留学生）研修」に焦点を当て、桜美林大学の 佐々木倫子 名誉教授の進行で実践報告が行われました。発表者の一人として登壇した、全専日協事務局長でもある 西村学 文化外国語専門学校副校長は、

『初任教師に求められる資質・能力とは、先輩がやっていることが出来るようになり、更に自分にしかできないことを見つけて伸ばそうとする事かと思えます。そのためには初任を中心とした教職員全体で補い合い、発揮すべきものと考えています』

と発表しました。また全専日協の連携会員校でもある長沼スクール東京日本語学校の

小島美智子校長からも発表が行われ、

『初任・中堅・ベテラン教員3名によるチームティーチングを実践しています。今回提示された研修の在り方を有効活用するには受講しやすい仕組み作りが必要と考えています。』

との実践報告でした。会場の皆さんは興味深い実例を熱心にメモを取っていました。



## [2] 第9回 日本語教育推進会議

この会議は、日本語教育施策について協力して実行している、各省庁と日本語教育機関・団体が、取り組み状況を発表し共有する目的で開かれています。今年9月19日(水)文部科学省に集まりました。前半は文化庁文化語科からの説明に続き、文部科学省、法務省、外務省、厚生労働省からの話がありました。後半は7つの日本語教育機関・団体からの報告に移り、全専日協からは深堀和子副会長が報告しました。持ち時間5分という制限された時間でしたが、新しく出来上がったばかりのパンフレットを配布し、協会のこれまでの活動やこれからの目的などについて説明しました。また、時間がかかりすぎると、会員の皆さんから指摘のあった入管行政についても改善を求めるなど、提言を織り込んでの発表でした。



## ◆ 執行役員会で最新情報の整理

「日本語教育推進会議」終了後、傍聴していた武田哲一副会長、池田俊一監事、古屋和雄理事、西村学事務局長が集まって、執行役員会を開きました。議題は

- 日本語教育推進基本法の法案が出来てくるのが10月になりそうだという情報があるところから、慎重に見極め会員の皆さんに周知する。
- 全学日協から私たち全専日協にも呼びかけのあった「日本語中堅教員研修」については既に会員の皆さんにメールでお知らせしてある。
- その他、最近の状況についての共有。

こうした議題については、そのつど会員の皆さんに報告し、検討することを再確認しました。

## ◆事務局からのお知らせ

### ●<特別会員の皆様>

特別会員の皆様の機関紹介をニュースレターで行います。会社や機関の事業や活動など、原稿を募集いたします。事務局まで奮ってご応募ください！！

### ●<会費納入>

会費の納入にご協力くださいますと、誠にありがとうございます。

ほぼ全ての会員の皆様のご入金を確認いたしました。

まだ入金がお済みでない方はよろしくお願いたします。

### ●<留学生補償保険>

全国専修学校各種学校総連合会からのご紹介で、「留学生補償保険」のご案内がありました。添付資料をご覧ください。詳細を知りたいという方は事務局までご連絡ください。担当者をご紹介します。 <添付資料1>

### ●<文化庁日本語教育大会・京都大会>

平成30年度「文化庁日本語教育大会・京都大会」が10月13, 14日に開催されます。詳細は下記HPにてご参照ください。ぜひ足をお運びください。

[http://www.bunka.go.jp/seisaku/kokugo\\_nihongo/kyoiku/taikai/30\\_kyoto/index.html](http://www.bunka.go.jp/seisaku/kokugo_nihongo/kyoiku/taikai/30_kyoto/index.html)

2018年10月3日  
全国専門学校日本語教育協会  
ニュースレター担当

